

ごあいさつ

第9回のコンサートにお越し下さりありがとうございます。梅雨空の合間に初夏の光、風を感じる7月の土曜日です。畑のとうもろこし、花壇のひまわりはすっかり背が伸び、夏はすぐそこです。

今回は心の底までさわやかな風が届くような、ステキなソプラノの歌声をお届けします。

日頃メディアを通して流行歌を聞く機会が多いですが、本物の生のソプラノの響きは神聖な気持ちになります。歌手の篠崎紫様は、昨年の暮、このクリニックで女の子を生んだ立派なママです。そのさわやかな、澄んだ、響きわたる、すきとおった歌声はきっと思い出に残る一時となると思います。

子ども達の悲しいニュースばかり目につく昨今ですが、2002年昨日までにこのクリニックでは、約320人の新しい命が生まれ、家族の祝福を受け退院されました。愛されて育ち、いつか素敵な人になってほしいと願っています。

今年は、クリニックの通用口にツバメが巣を作り、4羽のヒナが無事に巣立ちました。こんな光景が身近にあることに感動を覚えます。赤ちゃんを抱いたお母さん達の笑顔が絶ないように、マザーシップは活動していきたいと思います。

URL <http://www.m-ship.net/ilc> 2002年7月13日 NPO MOTHER SHIP 代表 井尾 裕子

1980年代の終わり、米国でエイズが社会問題となってきたころ、ニューヨークのアーティスト達が、エイズで命を落とした仲間達に対する追悼の気持ちとエイズに苦しむ人々への理解と支援の意思を示すためにレッドリボンをシンボルにした運動を始めました。この運動は、その考えに共感した人々によって国境を越えて広がっています。レッドリボンはエイズ患者・HIV感染者の方々に対する理解と支援のシンボルです。このリボンをつけることでエイズに対する偏見や差別をなくするという気持ちを表しています。



アメリカでは、8人に1人が乳がんにかかるため、ピンクリボン運動と呼ばれる啓蒙活動が展開されています。アメリカの女性たちの乳がん啓発キャンペーンから始まったこの活動は、胸にピンクのリボンをつけることにより定期的検診と自己管理の大切さを理解し、周囲の人々に乳がんの認識を促すことを目的としています。日本でも40歳以上の女性の死亡率のトップは乳がんの時代になりました。大切な家族、友人のためにも乳がんの早期発見から早期診断をアピールしていただけるようにとの願いをこめています。



第9回井上レディスクリニック Wリボンチャリティイベント

歌とピアノのコンサート

2002年7月13日（土）午後3時30分～5時

NPO MOTHER SHIP



INOUE LADIES CLINIC

プログラム

- 歌 バッハ 『アヴェマリア』
 中田喜直 『さくら横ちょう』
 中田喜直 『夏の思い出』
 山田耕作 『赤とんぼ』
 山田耕作 『さくらさくら』

ピアノ ドビュッシー 『2つのアラベスク』

休憩

- 歌 チマーラ 『ノスタルジア』
 リヒャルトシュトラウス 『献呈』

ピアノ ドビュッシー 『ベルガマスク組曲』
 プレリュード
 メヌエット
 月の光
 パスピエ

歌 プッチーニ オペラ『ジャンニ・スキッキ』より
 私のお父さん

プッチーニ オペラ『ラ・ボエーム』より
 私の名はミミ

ピアノ ドビュッシー 『喜びの島』

歌 『千と千尋の神隠し』より 「いつも何度でも」



いつも何度でも

呼んでいる 胸のどこか奥で
 いつも心躍る 夢を見たい

悲しみは 数えきれないけれど
 その向こうできっと あなたに会える

繰り返すあやまちの そのたび ひととは
 ただ青い空の 青さを知る
 果てしなく 道は続いて見えるけれど
 この両手は 光を抱ける

さよならのときの 静かな胸
 ゼロになるからだが 耳をすませる

生きている不思議 死んでいく不思議
 花も風も街も みんなおなじ

呼んでいる 胸のどこか奥で
 いつも何度でも 夢を描こう

悲しみの数を 言い尽くすより
 同じくちびるで そととうたおう

閉じていく思い出の そのなかにいつも
 忘れたくない ささやきを聞く
 こなごなに砕かれた 鏡の上にも
 新しい景色が 映される

はじまりの朝の 静かな窓
 ゼロになるからだ 充たされてゆけ

海の彼方には もう探さない
 輝くものは いつもここに
 わたしのなかに 見つけられたから



歌 篠崎紫 (しのぎきゆかり)
 97年東京音楽大学音楽科声楽専攻卒業。
 声楽を嵯峨おさむ氏、ピアノを佐藤由紀
 子氏に師事。長野県新人演奏会、松本市制
 90周年記念新人演奏会に出演。その後、立
 川にて声楽、ピアノ、箏等の指導にあたっ
 ている。



ピアノ 横田由美香 (よこたゆみか)
 97年東京音楽大学器楽科ピアノ専攻卒業。
 ピアノを大谷真美子氏、チェンバロを山
 田康弘氏に師事。女性合唱団・枇杷の会ピ
 アニスト。昨年よりソロ演奏活動を本格
 的に始動。2回のリサイタルにて好評を博
 した。また、音楽教室講師として後進の指
 導にあたっている。